

発達障害のある児童生徒の

# よき理解者・支援者となるために



## 児童生徒への支援は、どうしたらよいのでしょうか…？

子どもの「よさ」を見つけ  
「自信」をもたせましょう。

発達障害のある児童生徒は、周りの動きを見て、行動することが苦手です。

そのために、集団場面で注意されることが増え、自信をなくしがちです。「どうせ、ぼくなんか…」という投げやりな気持ちになることもあるようです。

当たり前のようなことでも、ほめるように心がけましょう。そして、自信をもたせましょう。



自分自身への  
気づきも促し  
ましょう

### ☆ほめ上手に

どの児童生徒にも、必ず「よさ」や「得意な面」があるはずです。うまくできたときは、必ずほめましょう。

ほめることで自分のよさに気づかせ、もっと得意な面を伸ばしましょう。

### ☆気づかせ上手に

児童生徒自身に「分からないこと」や「困ること」を気づかせることが大切です。困ったことを伝える方法、助けを求める方法なども教えましょう。



担任一人で悩まないで  
**組織で対応する**  
ことが大切

自分のよいところ、苦手なところなどを客観的に眺めさせ、自分の行動の特徴に気づかせましょう。

この「気づき」をもとに児童生徒自身が自分の行動を振り返り、改善していくように支援することが必要です。

### Point

- ・校内の「特別支援教育コーディネーター」や管理職、教育相談担当者等と一緒に相談し、役割を分担するなど、校内の支援体制を整備することが大切です。
- ・必要に応じて、地域の特別支援学校や関係機関の支援を得ましょう。

# 支援の実際

## ＝学習場面における支援＝

文章を読んだり、文字を書いたりすることが、他の児童生徒と同じようにできない。



### 〈考えられる原因〉

- ・認知のつまずきがあるために、見て理解する力、見分ける力が弱く、正確に情報処理ができない。(視知覚系の困難)
- ・たくさんの文字が同時に目に飛び込み、どこを読んでいるか分からない。
- ・文字の形や大きさを判別できなかったり、字の形を記憶することが難しい。
- ・聞いたことを覚えていることができず、すぐに忘れてしまう。

【読みの支援例】 ○読む行に紙や定規をあてたり、傍線を引いたりする。

○音読の文章を聞きながら文字をたどる。

○5W1Hの要素(誰、いつ、どこ、何、どうした)で文をとらえる学習をする。

【書きの支援例】 ○板書に色チョークを使い、分かりやすくしたり、板書を読ませてから書かせたりする。

○書く量を調節し、負担を軽減する。

【計算の支援例】 ○たし算、ひき算では具体物を提示する。

○文章題の場合、「合わせて」「のこり」「ちがい」などのキーワードに気づかせる。

教師の指示が、うまく伝わらない。授業中、ぼんやりしている。



### 〈考えられる原因〉

- ・認知のつまずきがあるために、聞いて理解する力、聞き分ける力が弱く、正確に情報処理ができない。(聴知覚系の困難)
- ・自分に必要な音声を選択して聞き取ることができず、似ている音声の聞き間違いが多い。
- ・見えるものや聞こえるものに気が散ってしまい、学習に集中することができない。

### 【具体的な支援方法】

○説明する時には、写真や図、表などの視覚的なものを準備する。

○授業をいくつかの展開に分け(説明を聞く、書く、グループで話し合う、発表する等)メリハリをつける。

○「きちんとしなさい」「しっかりしなさい」ではなく、「△△を3回しなさい」など、具体的に指示を伝える。

○指示の前に注意を促し、ポイントを明確にして、指示は3つ以内にする。

○座席を工夫(窓側から離す、前側にするなど)し、授業に集中できるようにする。

児童生徒のできたことや改善が見られたことはほめ、児童生徒の得意とすることやできることを手がかりとして指導を工夫することで、自信をもたせることが大切です。

## ＝学校生活や集団行動における配慮＝

興奮し、感情が高ぶりやすかったり、集団での行動が苦手だったりする。



### 【考えられる原因】

- ・社会についての認知、他人の行動の意味、周囲の状況や出来事を自分と関連させて理解する社会的認知につまずきがある。
- ・感情や行動の抑制・コントロール・モニタリング(自分の行動を振り返ること)が難しい。
- ・何をすればよいか分からず、一連の活動の見通しがもちにくい。
- ・こだわりがあり、柔軟な対応ができない。

### 【具体的な支援方法】

○パニックになったときは静かな場所に移動させ、落ち着く(クールダウン)まで待つ。

○急な変更は避け、変更がある場合は、できるだけ早く知らせる。1日の流れは、朝の会等で知らせる。

○初めて体験する行事については、写真を見せたり、日程を書いて示したりするなど、事前に見通しをもたせる。

○我慢や、うまく対応ができたときはほめる。

失敗の経験と叱責が続くと、自尊心(自己肯定感)が低くなり、不安や人間不信が募り、反抗的な態度をとることがあります。簡単なことでも、できたことをほめることが大切です。また、教師によって対応が異なると、児童生徒は混乱します。一貫した指導が大切です。

## ＝対人関係における支援＝

友達とうまく  
かわれず、  
トラブルが多い。



### 【考えられる原因】

- ・他人の行動の意図、周囲の状況や出来事を自分と関連させて理解することが難しい。
- ・自分の思いや気持ちをうまく表現したり、相手の気持ちや立場を理解したりすることが難しい。
- ・友達との気持ちの行き違いから、自分を抑えることができない。
- ・会話の基礎的なスキル(技能)を獲得していない。

### 【具体的な支援方法】

- 「うまくいかなかった場面」を本人と一緒に振り返り、どのように行動をすればよかったのかを考える。
- 考える際には、話すだけではなく図示したり文章に表したりして、相手と自分との関係が見えるようにする。
- 基本的な会話の仕方や友達の誘い方など、当たり前と思えるような基本的なやりとりを教える。  
※ソーシャルスキル(社会の中で人とかわり、ともに生活していくために必要な能力)の指導
- 本人の得意なことを生かして、周囲に認められるような機会をつくる。また我慢やうまく対応できたときはほめる。
- 肯定形(～しましょう)の指示を行う。

どうしてトラブルになったのか、どう対応すればよかったのか、一緒に考えながら自己受容(気づき)をさせることが大切です。



### 周囲の児童生徒への支援

発達障害のある児童生徒にどのように接したらよいか分からず悩んでいる児童生徒もいます。対応の仕方が分からず、からかいやいじめに発展することも少なくありません。

「誰にでも得意・不得意がある」ことや、障害の有無にかかわらず「一人一人の存在を大切にすること」について、みんなと一緒に考える場を設けることが必要です。そして、互いの違いを「個性」として認め合しましょう。

また、周りの児童生徒の不満や正直な気持ちを表出させる機会を設定することも大切です。

### 環境の工夫

教室の外から聞こえてくる音や窓から見える様子により、落ち着いて授業に参加できなくなる児童生徒がいます。「こんなこと」と思うようなことで、少しの工夫で授業の集中が大きく変わることがあります。



#### ☆掲示物

学級目標、係掲示、たより等、掲示をできるだけシンプルにしましょう。

#### ☆音量の調節

ざわざわしていると、それだけで教室に入れない児童生徒がいます。音楽をかけるときも音量などに注意しましょう。

#### ☆手本の提示

「OOさんのようにできたらいいね」など、行動のモデルを示しましょう。

## 幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校の連携した支援

### ◎今ある情報を引き継ぎましょう

就学や進学にあたり、幼児児童生徒がスムーズに就学・進学するためには、学校間の連携が不可欠です。担任や特別支援教育コーディネーターが中心となり、それまでの幼児児童生徒の実態や支援の内容を整理し、引き継ぎを行うことで、安心して新しい環境での学校生活を過ごせるようになります。

### ◎引き継いだ情報を支援に生かしましょう

周りの環境(人的、時間的、空間的、物的)の整え方と幼児児童生徒の行動をつないだ情報を引き継ぐことで、特別な支援が必要な幼児児童生徒を受け入れる際、支援の方向や具体的な手立てが立てやすくなります。

受け入れる学校では、引き継いだ情報をもとに校内委員会で学校の支援体制について検討しましょう。

その時、保護者の協力を得ながら、個別の指導計画や個別の教育支援計画、相談支援ファイルなどを活用し、担当者同士が時間をとって話し合うなど、情報を適切に引き継ぐための工夫が大切です。

## 保護者との連携

児童生徒の一番の理解者・支援者は保護者です。  
保護者の気持ちや苦勞をくみ取り、共感できる支援者になりましょう。  
何より共に歩む気持ちをもつことが大切です。

### ☆信頼関係を築く

問題点だけを伝えるのではなく、日ごろから児童生徒の「よさ」を見つけ「よさ」を伝えましょう。

### ☆連絡帳を活用する

連絡帳には「今、取り組んでいることやがんばっていること」を書きましょう。

学校での様子を伝えるときは、「どんなとき、どのようなきっかけで、どんな行動があったか」をていねいに書き、学校での対応によって改善されたことも具体的に伝えましょう。

### ☆目標をもち、計画を立てる

どのような力を付けていきたいかを保護者と話し合い、目標をもって個別の指導計画を立てて取り組みましょう。

## 校内支援体制の整備

児童生徒からの相談

教師の気づき

保護者からの相談

【記録をとることが重要】

相談

学年会

特別支援教育コーディネーター

生徒指導部

### 校内委員会

#### 【構成メンバーの例】

校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、教務主任、保健主事、進路指導主事、特別支援学級担当、学年主任、養護教諭等

- ・児童生徒の実態を組織的に把握します。
- ・支援内容・方法、支援の在り方を検討します。
- ・児童生徒の指導方針などについて、教職員間で共通理解を図ります。
- ・保護者や関係機関との連携を図ります。
- ・校内研修会などを計画し、教職員の指導力の向上を図ります。

担任一人では十分な支援はできません。  
支援体制を整備し、組織(チーム)として支援することが大切です。



連携・支援

### 外部支援機関

#### 地域の特別支援学校

##### 〈新川地区〉

- ・にいかわ総合支援学校

##### 〈富山地区〉

- ・しらとり支援学校
- ・富山総合支援学校
- ・高志支援学校
- ・富山大学附属特別支援学校

##### 〈高岡地区〉

- ・高岡支援学校
- ・こまどり支援学校

##### 〈砺波地区〉

- ・となみ総合支援学校
- ・となみ東支援学校

校内での支援だけでは不十分なときには、積極的に外部支援機関を活用しましょう。

#### 進学に関する教育相談

##### 〈東部地区〉

- ・富山高等支援学校

##### 〈西部地区〉

- ・高岡高等支援学校

#### 富山県総合教育センター

教育相談部 特別支援教育担当  
TEL 076-444-6351

#### 東部教育事務所

TEL 076-444-4569

#### 西部教育事務所

TEL 0766-26-8461

#### 富山児童相談所

TEL 076-423-4000

#### 高岡児童相談所

TEL 0766-21-2124